

家庭学習ノートの活用と指導

家庭学習ノートの取り方がうまくできるようにすることはなかなか難しく、時間のかかることです。書くことを整理し見やすく書くためには、考えが整理されていなければならないからです。ここでは、主に低学年のノート指導を中心にその問題点や指導ポイントについて考えてみよう。

はじめに

家庭学習ノートは、これまでの学習した内容の定着を図る練習に取り組みさせるなど復習に使われることが多い。

さらに、これから学習する内容を予習的に調べて記述したり、日記や自由研究のような内容を記したりするものとして活用されている。

一般に家庭学習ノートは次のねらいで取られ（書かれ）る。

文字や文、単語、計算などの練習をし、学習した内容を身に付ける

書くことや記述することで考えることができる

学習した内容や取り組んだ量をそのまの状況で残すことができる

後で考え直したり、記憶したりする資料にすることができる

家庭学習ノートの活用

うまく家庭学習ノートが取れば、学習をすすめるうえでの効果が上がり、書くことが整理されるために考えが整理され、子どもの思考力を身に付けることにもつながる

家庭学習ノートに取り組んだ子どもには、上記のねらいに基づいて振りかえることで、身に付いた満足感、取り組んだ成就感、成し得た達成感、そしてやり遂げられる力が自分の中にあることを実感できる貴重な取組体験の場となり、やがて子ども自信にもつながる。

ノートの取り方の問題状況

次のようなノート状況では、うまく学習が進められなくなるので、指導が必要となる。

主な問題状況

文字が丁寧でない、文字の大きさが揃っていない

ノートの行からはみ出る、曲がる
行やページををとばして書く

内容の標題、見出し、問題のページや番号等が書いていない

書く順序や書く場所が一定していない

見た目が汚く読む気が起こらない
読みにくく内容が読み取りにくい
読みにくいので読みとりに時間がかかる

どこに何が書いてあるのかが分かりづらい

どのような学習をしたのが読み取りにくい

どのようなことをどのような道筋で考えたのが読み取れない

ノート指導の事例から

子どものノートの取り方は、まず教師の板書を写すことから始まり、しだいに自分独自の書き方へと発展する。次はノート指導の一例を示したものです。

1 板書を写す（視写する）

特に低学年では板書を写すことは大切な学習の一部です。

ノートを選ぶ

子どもが書く字の大きさ、板書する一文の長さ、書く量、学習内容に応じたノートを選ばせる。

低学年は、どの教科も方眼形式のノートのもの、漢字は漢字用のノートの方が、きれいにかける。

ノートに合わせた黒板

低学年の場合、何マスあけて書き始めるのか、問題の番号はどこに書くのか、どこで行をかえるのか判断できない。

そこで、ノートの取り方が慣れるまでは、板書したことをそのまま写させる。そのためにノートと同じマス目の小黒板を使

い、後で視写させるものは、この小黒板に書く。
視写に慣れるにしたがって、通常の黒板へ移行する。

ノートを取らせる
書くときの決まりを説明し、いつも同じ形式の部分は大きな紙などに書いて常掲しておく

日付、教科書のページ、問題番号、句点や読点、書き違えたときの処理の仕方、印の約束の意味など

書く時間を確保すること

字の大きさ、書く場所、行かえの場所などを説明する

子ども自身の考え、感想、疑問などを書く場合には指示をする

2 ノートを取るパターンを示す

学年が進むほどその子どもなりの仕方でのノートを取るようになります。はじめはノートの取り方のパターンを示してあげるのも大切な指導である。

その時間の学習課題、自分の疑問や課題、その子ども自身なりの解決方法、結果や結論、学習への子どもの自己評価や感想などを書く場合の項目や順序、場所を指示し教える

吹き出しやカード方式、図や表を取り入れるなど、その子どもなりの考えが書き表せる手法を教えていく

パターンに慣れてきたら、次第に自分で書く部分を増やししながら、その子どもなりのノートの取り方ができるように指導・援助を行う

3 学校での指導

ノートがうまく取れない子どもを教室で指導する機会として、授業中の机間巡視での個別指導の場面などを生かしたい。

板書がよく見えるように、席を前の方にし個別指導のしやすい座席にする

教師がそばについていて、ノートを書くのを見て必要な指示をする

行かえの場所などポイントになる箇所をノートに鉛筆で薄く印をつけてあげる

場合によっては、文字を書くことがうまくなかったり、スピードが遅かったりすることがあるので書く練習をさせる

子どもと同じノートに教師が書いたものや友だちが書いたノートの写しなどを手元に置き、それをそのまま視写させる

家庭（学習）でのノート指導

家庭での学習というと宿題をする、家庭で購入したプリントをする、塾の課題をするなどがある。子どもの成績をあげることは効果のある取組である。

加えて、子ども自身の自分の力で考え、ノートにまとめていくという長い目で見た学力をつけさせるために、家庭学習ノートへ取り組ませる

ノートの取り方が上手でない子どもは、学習の全体を見通して考えを進めていくことが苦手である。このような子どもに対する指導として、次のようなことが考えられる。

学校で出された宿題や、その日の復習を一緒に見てあげながら、考えの進め方や整理されたノートへのまとめ方を教えてあげる

具体的な指導の例としては

授業の中で担任が工夫しながらノートの取り方を指導しているので、教室でのノートの取り方がどのようになされているのか子どもや担任に聞いて確かめる
それに応じながら、必要な工夫を加えて書き方のアドバイスをする

その日に勉強することの全体の見通しをもたせ、ノートをどのように使うか一緒に考えてあげる（絵で言うスケッチにあたる）

課題を一緒に考えながら、ノートへのまとめ方の相談にのってあげる

慣れるまでは、そばについて見てあげることが必要である

慣れてきたらポイントになる箇所に印をつけてあげ指示するだけにして次第に子どもに任せるようにする

ノート指導は、「考え方の指導」をすることである。忍耐強く取り組んでいきたい。